

地方独立行政法人長野県立病院機構第3期中期目標の策定において 考慮すべき計画等について

令和元年5月29日

健康福祉政策課

1 県立病院機構第3期中期目標に考慮すべき計画等

(1) 地域医療構想

2025年に向け、医療機能の分化・連携を進め将来の医療需要に応じた医療提供体制の構築を図るため、各地域に設置した地域医療構想調整会議（以下「調整会議」という。）において、各医療機関の将来計画等について協議がされてきたところである。

公立病院が担う機能については、民間医療機関との役割分担や医師の働き方改革を踏まえ、

- 「代替可能性がある」「診療実績が少ない」ものを国が医療実績を基に公表
- 対象となる医療機関は、「機能の集約化」や「病院の再編・統合」について、今年度末及び来年度央までに、調整会議において改めて検討し結論を得ることが求められる。

(2) 医師確保計画

地域間の医師偏在の解消を通じ、地域における医療提供体制の確保を目的として、医療法及び医師法が改正され、地域間の医師配置の状況を相対的に把握する「医師偏在指標」を基に、医療計画の一部として医師確保計画を今年度中に策定されることとなった。

医師偏在指標を基にした「医師少数区域」や「医師少数スポット」等の設定により、当該区域への医師の派遣調整、地域枠・地元枠の設定等を通じた偏在対策がとられることから、地域における医療提供体制の確保に資するよう、県立病院は圏域内の医療機関と連携していくことが求められる。

2 今後の中期目標策定の方向性

上記1の計画等との整合性を図ることが必要なことから、それぞれの進捗状況に合わせて県立病院機構第3期中期目標案の見直しを随時行いつつ、策定することとした。

地方独立行政法人長野県立病院機構 第3期中期目標の論点の整理

第1 中期目標の期間

令和2年4月1日から令和7年3月31日までの5年間

第2 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 県立病院が担うべき医療等の提供

◆信州医療センター

地域医療／がん医療／在宅医療／産科医療
感染症医療（第1種及び第2種感染症指定医療機関、エイズ拠点病院）

◆こころの医療センター駒ヶ根

地域医療／救急、急性期医療／児童、思春期医療／医療観察法による指定機関
災害医療（災害派遣精神医療チームの派遣体制確保）／在宅医療

◆阿南病院

地域医療（下伊那南部地域）／へき地医療（拠点病院）／がん医療／在宅医療／救急医療
介護サービス（介護老人保健施設、訪問看護ステーション）

◆木曾病院

地域医療（木曾地域）／へき地医療（拠点病院）／がん医療（地域がん診療病院）
感染症医療（第2種感染症指定医療機関）／産科医療／救急医療
在宅医療／災害医療（拠点病院、災害派遣医療チームの派遣体制確保）
介護サービス（介護老人保健施設、介護医療院）

◆こども病院

地域医療支援病院／小児中核病院（小児救命救急）／がん医療／在宅医療
総合周産期母子医療センター

2 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(1) より安全で信頼できる医療の提供

医療事故防止、院内感染防止などの安全対策の推進

(2) 患者サービスの一層の向上

患者への説明や診療情報の提供の実施などによる患者満足度の向上

3 地域連携の推進

(1) 地域の医療機関との機能分化・連携

地域医療構想を踏まえた他の医療機関との役割分担と連携体制の強化

(2) 地域の保健、福祉関係機関等との連携

市町村、児童相談所など関係機関などとの連携による様々な分野（児童虐待・医療的ケア児・母子保健・予防医療など）での支援

(3) 地域包括ケアシステムの推進

高齢者などへの医療・介護等のサービスが切れ目なく提供されるよう地域関係機関との連携による地域包括ケアシステムの推進

(4) 地域への情報提供の充実

病院機構が取り組む調査及び研究の成果や公開講座の開催やホームページの活用などによる県民への情報発信

4 医療従事者の養成と専門性の向上

- ・研修、教育体制の充実による質の高い医療従事者の養成
- ・認定資格の取得推進による専門性や医療技術の向上

5 県内医療に貢献する医師の養成と確保

- ・初期研修医及び後期研修医の積極的な受け入れと養成
- ・総合診療専門医の養成

6 県内医療水準の向上への貢献

- ・県内医療機関の医療従事者への研修による医療水準の向上
- ・本県医療を担う医療技術者の養成のための医療関係教育機関等への講師派遣や実習生受け入れ

7 信州木曾看護専門学校の運営

看護専門学校の運営による本県医療を担う看護師を育成

8 医療に関する研究及び調査の推進

大学との連携による臨床研究の推進や治験への積極的な参画による医療の質の向上と新たな医療技術への貢献

9 信州大学との連携

- ・連携大学院を活用した医師及び医療技術者の養成
- ・電子カルテの統一・遠隔医療のシステムの検討
- ・新たなニーズに対する医療の充実

第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 業務運営体制の強化

- ・医療需要や業務環境の変化に即応する業務運営体制の強化
- ・効果的な業務運営に向けた人事管理体制の整備と適切な職員配置
- ・業務運営の向上及び強化につながる人事評価・給与制度の導入
- ・医療機能や経営に関する目標の設定及びPDCAサイクルによる目標管理の徹底

2 経営力の強化

- ・経営部門における専門性の向上
- ・職員の積極的な参画による業務運営改善の一層の推進

3 職員の勤務環境の向上

- ・職員一人ひとりが仕事にやりがいを持てる、ワークライフバランスに配慮した働きやすい環境づくりの推進
- ・国の働き方改革に伴う多様な勤務形態
- ・職員の健康維持・増進を図るための各種健診やメンタルヘルスケアの実施
- ・各種ハラスメント対策を強化するため、マニュアル整備や研修会の実施などの取組を推進するとともに、実効性のある組織体制の構築

第4 財務内容の改善に関する事項

1 経常黒字の維持

- ・中期目標期間を累計した損益計算で経常収支比率を100%以上
- ・キャッシュフローを意識した長期的な視点から見た病院経営による資金計画

2 経営基盤の強化

- (1) 収益の確保
 - ・病床利用率の向上
 - ・診療報酬制度改正への適切な対応
 - ・未収金の発生防止と早期回収
- (2) 費用の抑制
 - ・医薬品及び医療材料の適正な在庫管理
 - ・経営状況の分析による費用対効果の改善に向けた取組

第5 その他業務運営に関する重要事項

1 コンプライアンスの推進

医療法など関係法令を遵守するなど内部統制を推進した適正な病院運営への取組

2 適切な情報管理

長野県個人情報保護条例（平成3年長野県条例第2号）及び長野県情報公開条例（平成12年長野県条例第37号）に基づく適切な情報管理と情報セキュリティに対する職員への周知徹底

3 施設整備及び医療機器に関する事項

地域の医療ニーズや地域の医療機関との機能分化、将来の収支見通し、費用対効果などを総合的に勘案した中長期的な投資計画の作成による計画的な施設整備と効率的な医療機器の活用を推進

4 先端技術などの利活用

- ・先端技術を活用した遠隔診療システムの推進
- ・電子カルテの相互参照などによる他の医療機関等との情報共有

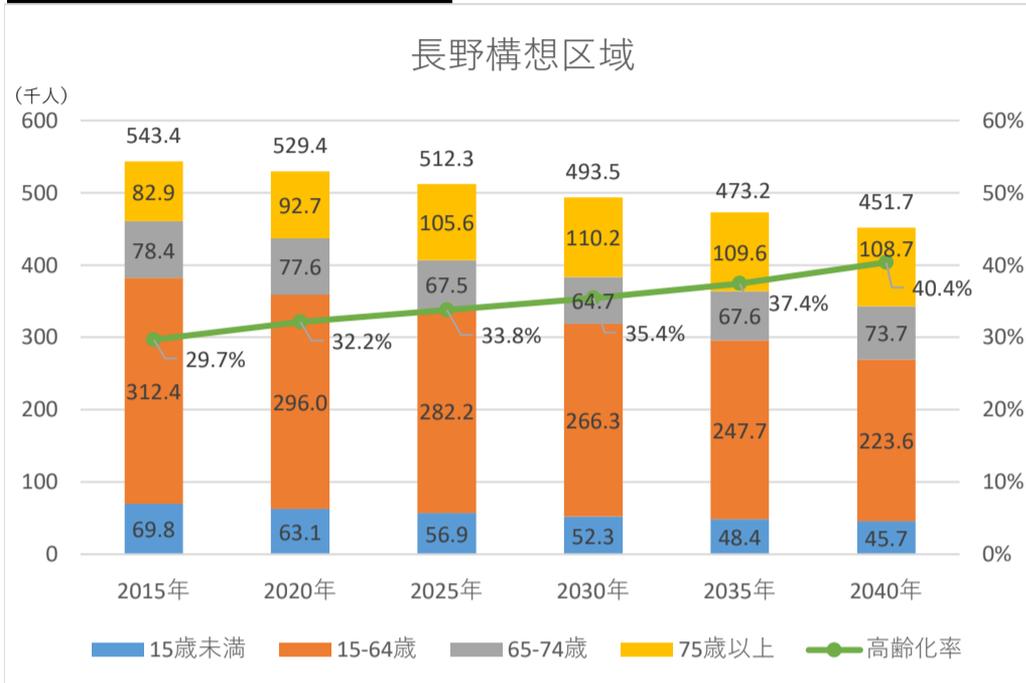
将来の人口・高齢化率・入院患者数の推移見込

○信州医療センター

(許可病床数：一般292床、結核24床、感染症4床※)

※第一種感染症病床2床、第二種感染症病床2床

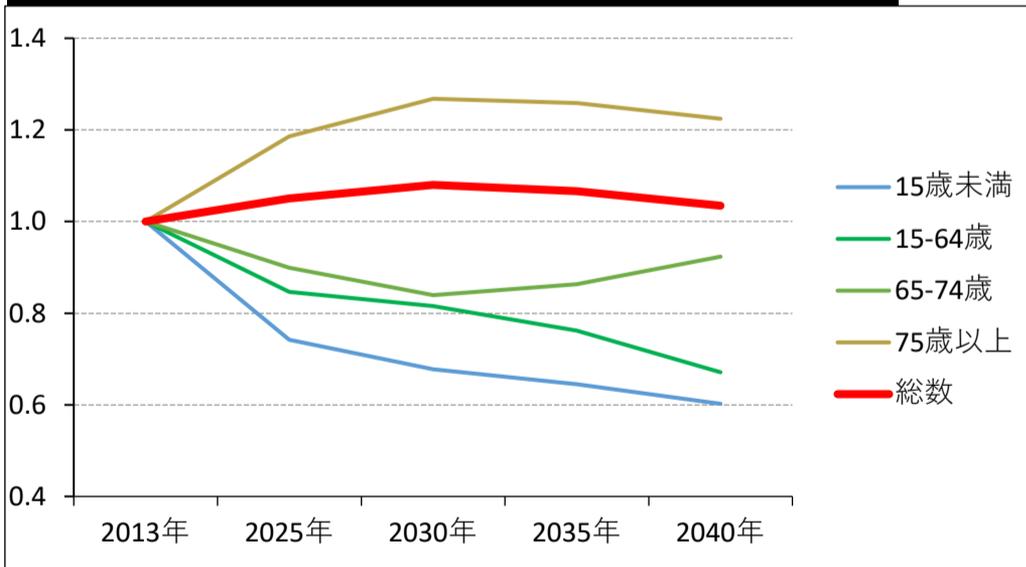
将来の人口・高齢化率の推移



・長野区域の総人口は減少傾向にあるが、75歳以上人口は2030年頃にピークとなった後、減少に転じると見込まれる

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H30年3月推計)より作成

入院患者数の推移見込み (2013年を1とした場合の変化率)



・全体として入院患者数は2030年頃にピークを迎える見込みだが、増加は2013年から1割程度の見込み

・65歳～74歳の入院患者数は減少傾向の後、2030年頃から再び上昇する見込み

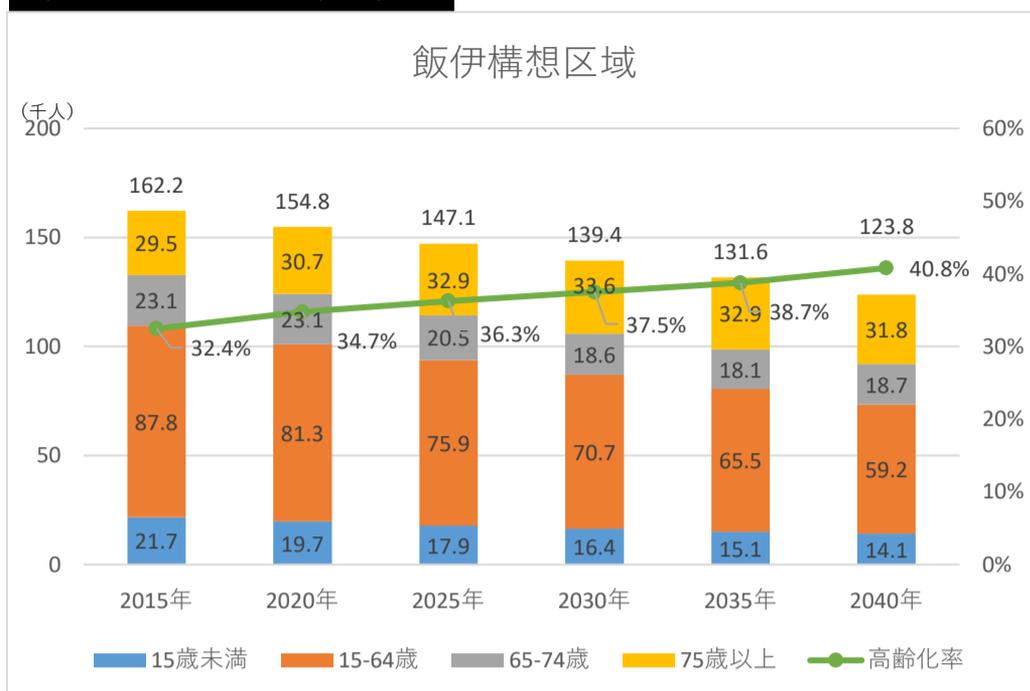
・75歳以上の入院患者数は2030～2035年頃にピークとなる見込み

出典：長野県地域医療構想(H29年3月)より

○阿南病院

(許可病床数：一般85床)

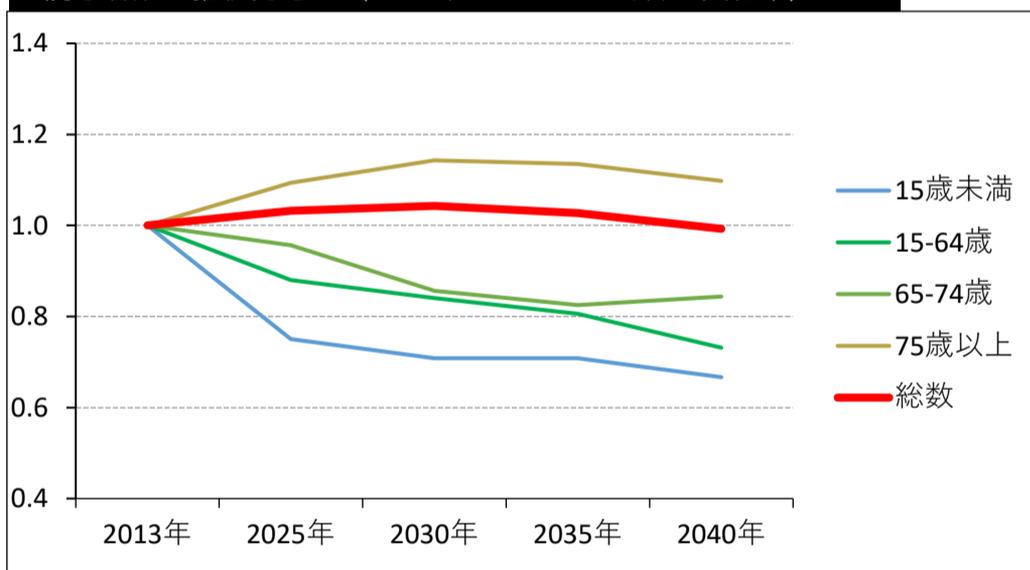
将来の人口・高齢化率の推移



・飯伊区域の総人口は減少傾向にあるが、75歳以上人口は2030年頃にピークとなった後、減少に転じると見込まれる

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H30年3月推計)より作成

入院患者数の推移見込み (2013年を1とした場合の変化率)



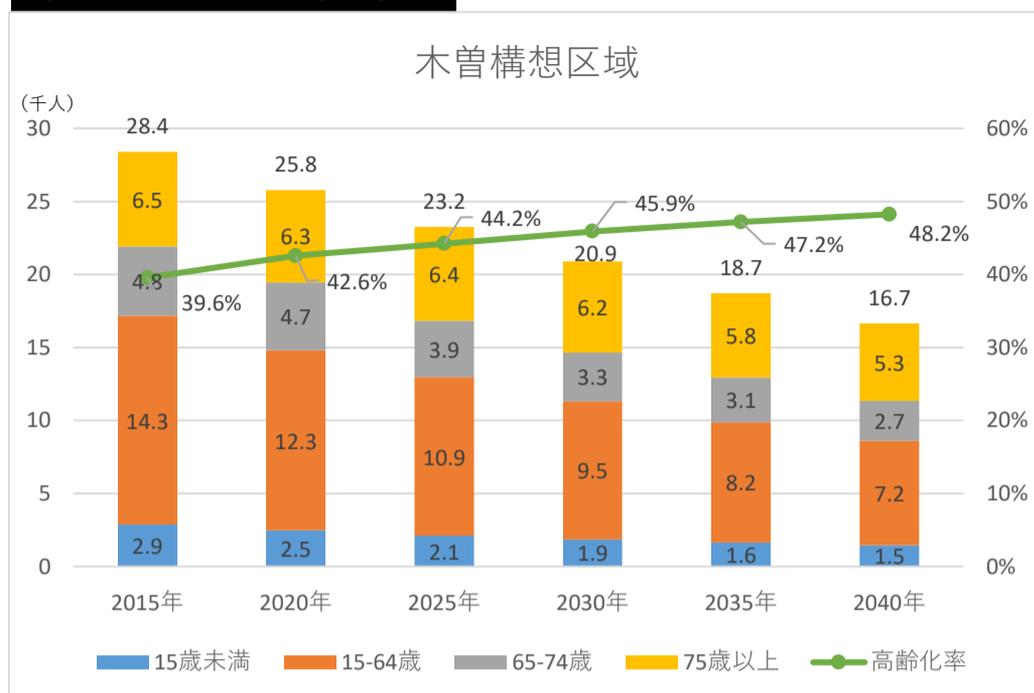
- ・全体として入院患者数は2035年頃まで横ばいで推移の見込み
- ・75歳未満の入院患者数は減少傾向
- ・75歳以上の入院患者数は2030年頃にピークとなる見込み

出典：長野県地域医療構想 (H29年3月)より

○木曾病院

(許可病床数：一般191床、療養44床、感染症4床)

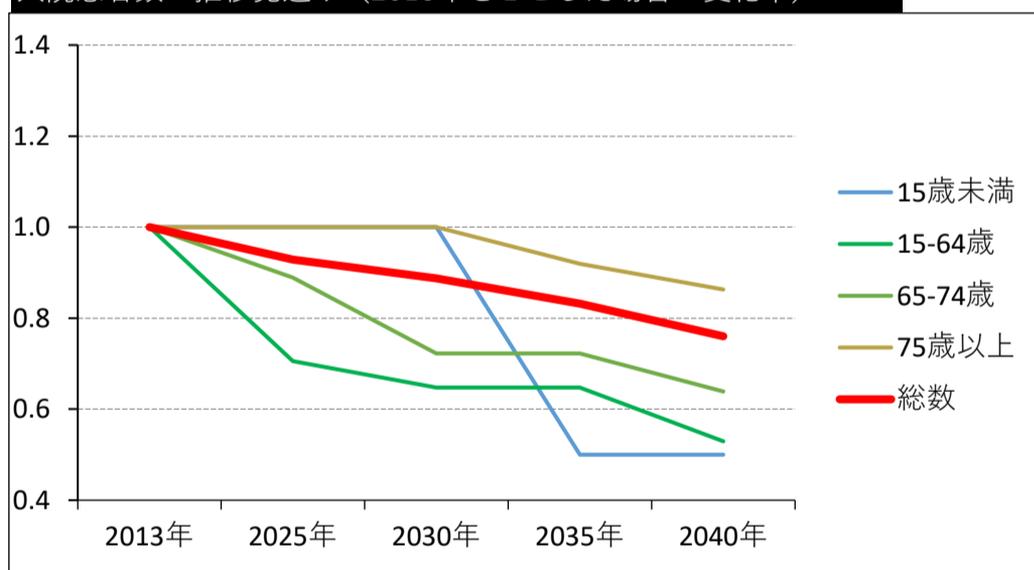
将来の人口・高齢化率の推移



- ・木曾区域では総人口の減少傾向が続く見込み
- ・75歳以上人口は2030年頃まで横ばいで推移したあと、減少していくことが見込まれる

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H30年3月推計)より作成

入院患者数の推移見込み (2013年を1とした場合の変化率)



- ・全体として入院患者数は減少していく見込み
- ・75歳以上の入院患者数は2030年頃まで横ばいで推移した後、減少していく見込み

出典：長野県地域医療構想 (H29年3月)より